



東西しらかわ小学校長会 広報部

第7号 令和3年 7月 7日
発行人 会長 根本 秀一

一年間 よろしくお願ひいたします

東西しらかわ小学校長会長 根本 秀一
(白河市立みさか小学校長)

新型コロナウイルス第4波警戒の中、令和3年度が始まりました。実施時間や参加人員を制限して入学式を行うなど、コロナ禍における安全な行事の在り方に対する考え方も、1年をかけて定着してきました。

さて、社会の変化とともにめまぐるしく新しい教育施策が打ち出され、県小学校長会では、「新型コロナウイルス感染症対策下の安全な教育活動の推進」「学習指導要領の理念の実現」「中教審答申『令和の日本型学校教育の構築』の具現化」「特別支援教育の充実」「一人一台端末の活用」「GIGA スクール構想の実現」「学校における働き方改革の推進」「高学年における教科担任制の試行」「教職員の資質能力の向上」「教職員の定数・処遇改善」等を課題として、その解決に取り組んでいくことが確認されています。特に、教員の定数・採用・人材育成・処遇改善は喫緊の重要な課題であり、学校現場だけでは解決できるものではありませんので、各会員の意見をとりまとめ、校長会の組織力を活かして、今後も要望活動を続けていく必要があると考えています。

先日、県の第2回理事会が開催されました。理事会の最後には研修の場が設定され、第2回のテーマは「GIGAスクール構想の現状と課題について」でした。グループ毎の協議で、事前に会員の皆さんよりいただいた内容を基に話し合いを行

いました。県内の状況は、全ての自治体においてタブレット等の端末が整備されましたが、未だにコンピュータ室に積まれていてまだ児童が手にすらしていない自治体から、既に家庭への持ち帰りを始めている自治体まで、大きな差が生じていることが分かりました。県南域内においてもこれに近い状況が見られています。今後は、各校の取組について情報交換し、その情報を各地教委に提供していくことも本会の役割であると考えています。域内の9市町村で導入された端末や学習支援ソフト、学習ドリル等は同一ではないので、異動の際には困難が予想されますが、指導上の課題や体制づくりについては、校長会の情報力を活かして改善を図っていくことができると考えています。なお、理事会研修会における私のグループでは、児童生徒の健康面に及ぼす影響についても話題になりました。文科省は健康に関するICT活用の際の留意点として、「目から30cm以上離して見ること」「30分に1回はタブレットの画面から目を離して20秒以上遠くを見ること」「寝る1時間前からはデジタル機器を使わないようにすること」等を示しています。しかし、これで十分でないことは明らかです。我が校の児童はタブレットを使いたがります。生まれた時からスクリーンに親しむ環境にあったからなのかもしれません。電子機器が子どもたちにどのような影響をもたらしているのかについて、常に問題意識をもって見ていくことが必要であると感じています。これまではスマートフォンやゲーム機は家庭で活用されるものでしたが、これからは学校でタブレットを使った学習が推進されていくことから、今まで以上に電子機器が子どもの健康面に与える影響を保護者と共有していくことが必要になります。

GIGAスクール構想を始め、様々な課題の解決のため、今更ながらですが、保護者や地域の方々とのコミュニケーションの機会を多くし、互いの価値観を理解し合い、思いを共有していくことが必要だという思いを強くしています。

新学習指導要領全面実施の2年目です。学校を責任をもって経営している校長同士が横に繋がる校長会の強みを活かし、これら課題とその解決に向けた取組を共有していくことが、より一層大切になってくると考えています。一年間、どうぞよろしくお願いいたします。

「撓(しなや)かに いい仕事をする

「自分に問いかけ」続けて

白河市立白河第二小学校長 井上久仁夫

3月に学校のPTA広報紙のアンケートで「白河二小を漢字一文字で表すと？」という質問がありました。PTA会長さんは、授業やいろいろな行事で見た子どもたちの笑顔と保護者の姿から「輝」という文字を選んでくれました。

私はというと、感染症対策に追われ、悩みながらもみんなでアイデアを出し合い、乗り切ってきたこの一年のことを思い浮かべ、自然に浮かんだのは「しなやか」という言葉でした。白二小の子どもたちを育てる教職員として譲れないものと譲ってもいいものの線引きに苦慮しながらも、チームとして乗り切ってきた姿は正に「しなやか」なものでした。しかし、漢字が思い浮かびません。

広辞苑で調べてみると、

「撓(しな)う・撓(しな)る」から

- ① しなやかにたわむ様子
② 草木が繁茂してたわむ様子
③ 逆らわずに従う様子

と説明されており、どれも本校の教職員・子どもたち・保護者の姿にあてはまるような気がして「撓」と書かせてもらいました。

今、学校には変化の著しい社会への対応とそれぞれの抱える課題解決に向けた取組が求められ、教職員一人一人にはGIGAスクール構想に基づいた授業改善や生活環境が複雑化する様々な子どもへの対応等が求められています。

そのような中、ここ数年私が感じているのは、教職員にとっての「バランス感覚」の大切さです。子どもに第一として考えた教育活動を推進する一方で、働き方改革も進めていかななくてはなりません。教職員として働く意欲を感じながら、教育活動の質を落とさず、限られた時間で学び合う集団をつくっていくには、優れたバランス感覚が必要であると考えています。

そして校長に求められているのは、バランス感覚の優れた人材を育成すること、しなやかな学校経営で教職員にいい仕事をさせることであると思います。本会のネットワークを大切に、お互いにいい仕事ができればと思います。

白河市立白河第一小学校長 加藤 正行

校長先生方には、これまでいろいろな場面で世話になってまいりましたこと、あらためて御礼申し上げます。そして、この度、本会の会員にさせていただけることをとてもうれしく思います。

私は、教員としてのほとんどの時間を県南地区で勤務させていただきました。その中で、2校目の6年間、白河第一小学校に勤務し、教員としての基礎を鍛えていただきました。あれから27年。細く若い木だった校庭の桜は、春には見事な美しい花を咲かせ、夏には子どもたちにさわやかな木陰をつくる幹の太いたくましい樹に成長しました。果たして、私はどうなのか、自問しています。

本校の教育目標は「自分に問いかけ、自分で考え、自ら進んで行動する、健康で品性の高い子ども」です。この目標は、昭和42年度 圓谷秀雄校長先生の時代を原点とし、昭和49年度 深谷健校長先生のときに現在の目標とされ、脈々と受け継がれています。私は、この目標の「子ども」を「教師」と読みかえ、自分に問いかけることを大切にしてきました。そしてこれからも、この目標を具現できる人間でありたいと思っています。

昨年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため、それまで当たり前できていたことができなくなりました。「この活動は、子どもにとってどんな価値があるのか」、「どうして子どもは学校に登校するのか」など、様々なことを問い直し続けてきた1年でもありました。

そのような中でも、それぞれの学校において、日々の授業はもとより、運動会や学習発表会、修学旅行などについて、校長先生方の熱意とネットワーク、保護者との連携により、「どうすればできるのか」を熟慮し、工夫を凝らした活動を展開してきました。そのエネルギーは本当に素晴らしいものでした。今年度、本校では、前任の菊池篤志校長先生のリーダーシップのもと工夫された活動の実績を基盤とし、感染防止対策を継続しながら教育活動を実施することができています。

これからもまた、予断を許さない状況は続きますが、東西しらかわ小学校長会の皆様と力を合わせて、子どもたちのために微力を尽くしていきたいと思っています。どうぞよろしくお願ひいたします。

関辺小学校に赴任して

白河市立関辺小学校長 清野 孝

昔の話で恐縮です。中田の陸上競技場が土のトラックの頃、平成8年度郡市陸上大会。6年担任の私は、子ども達と「男子リレー優勝」を目標に掲げて準備を進めました。当日は予選を全体一位で決勝進出。期待が膨らむも叶わず3位。伝統的にリレーが強い大規模校との優勝争いの想定が、児童数が自校の半分に満たないチームにゴール前で抜かれ準優勝も逃しました。驚いたのは、その選手達が裸足で走っていたこと。関辺小チームです。衝撃でした。今でも鮮明に覚えています。

25年後の4月、縁あって、その関辺小学校勤務となりました。まだまだ順調とは言えない私ですが、子ども達の素直さと給食のおいしさ、自然豊かな風景に心はときめき、保護者・地域の協力態勢の良さに日々感謝する毎日です。特に、見守り隊の方々には本当に頭が下がります。

毎朝、多数の見守り隊の方が各方部で登校班と一緒に歩き、大型車が途切れない道路を安全に横断させてくださいます。車で移動しながら複数の危険箇所に立ってくださる方や、通学路のゴミ拾いを兼ねて二十年以上も継続の方、下校時刻に合わせて何度も三差路に来てくださる方もおられます。「地域の宝と一緒に歩くのが健康の秘訣」と笑顔でお話されますが、心身のご負担は決して小さくはないはずです。「当たり前と思ってはいけない。感謝の気持ちを言葉で伝えよう。」と子ども達に話し、私もせめてご挨拶だけでも、日替わりで各方部に出向くことを始めました。御礼を申し上げ、毎朝お話しする中で得られる情報はたいへん貴重です。私自身、毎朝見守り隊の方々から逆に活力も頂戴しています。先日は、中学年の「関山登山」にお誘いし大好評でした。今後も交流の機会を増やしていければと思います。

校舎内に掲示されている「雪上を裸足で走る1年生」や「逆立ちサソリ相撲」、「凍らせた校庭での下駄スケート」等、逞しい「関辺っ子」の写真を見ながら、実績ある関辺小の教育を、私もどのように進めていくか、私がすべきことは何かを日々考えております。東西しらかわ小学校長会の皆様にご指導をいただきながら、精一杯努力してまいります。どうぞよろしく願いいたします。

「怯まず、驕らず、澁刺と」

白河市立信夫第二小学校長 木戸美智子

- ①改善意識のない校長・・・課題を見出せない学校
- ②ビジョンの持てない校長・・・方向性のない学校
- ③前例踏襲主義・・・安易な方向に流れる学校
- ④組織力の低下・・・自立型組織になれない学校
- ⑤多忙感という思い込み・・・多忙を理由に何もしない学校
- ⑥ICTスキルの低さ・・・情報化に対応できない学校

4月。校長の志と覚悟として、上記6点についてご指導いただいた。学校が自己改革できるかは、校長の資質・能力にかかっているということなのだ、身が引きしめる想いがした。今日までであったという間の3か月だったが、日ごとに校長の責任の重さとその意味を実感しているところである。

私は、学校現場を6年ほど離れた時期がある。先生方と話し合う機会をいただいたときには、自分自身が大切にしている教員としての心構えについて話すことがあった。それが「怯まず、驕らず、澁刺と」である。前例のないことに対しても怯まず挑戦する。常に自己反省・自己研鑽を繰り返し、驕らず自分を高める。働き方改革で教育業務の質を活気ある澁刺としたものにする・・・。

ところがである。この3か月で何度怯んだことか・・・。自分の言動を顧みる前に人への怒りの感情が沸いてきてしまうことがあり、これは驕りだと感じることも・・・。本当に情けなく、自己嫌悪に陥ることが多々あった。この状況を救ってくれたのは、本校の子どもたちの笑顔であり、教職員と保護者の子どもへの愛情であり、地域の皆さんの温かさなのだが、それ以外にもあった。実は、この校長会の先輩方の励ましのお言葉やご指導によるものが大きかった。この組織のありがたさを心から実感した3か月だったのである。

私の学校経営は、まだ始まったばかりである。前述の校長としての資質・能力はまだ不十分である。しかし、私には「チーム信夫二小」の仲間たちがいる。閉校まで残り9か月。”最後の1年を最高の1年に”を合い言葉に「怯まず、驕らず、澁刺と」日々努力し、精進していきたい。

校長会の皆様、よろしく願いいたします。

「主語が子供」 幸せな学校を創る

風を感じて

西郷村立羽太小学校長 関根 敦子

「校長職の魅力は何ですか。」これは、校長昇任
考査二次面接での最初の質問でした。「魅力…」
と一瞬頭によぎってしまう自分が正直いました。

月日がたつのは早く、校長職を拝命し4か月目
を迎えています。教頭初任校である羽太小学校で
の校長としての勤務は、「自分の強みであると共
に、弱みでもある」ことを日々自覚しながら過
しているところです。実態を知っていることは、
物事を決定するときの大元となりますが、反面そ
れは実態をそのまま受け入れ、変化を逸してしま
うことにもつながりかねません。「新たな視点で
羽太小学校を見つめ直す」このことを忘れず日々
過ごしています。

未だ続くコロナ禍において、重要な決断が続き
ます。常に子どもを中心に捉えて判断していますが、
迷うことも多くあります。教頭時代ご指導い
ただいた4名の校長先生方の姿を胸に、「今、何
をどうしなければならぬのか 自分が最大限で
できることは何か」を問い続けています。

また、コロナ禍の閉塞感が私たち大人を、社会
を包んでいます。けれど、ふと周りを見ると、学
校はひまわりのような笑顔の子ども達であふれて
います。その明るい笑顔は、自分の心を明るく照
らしてくれます。「そうなんだ。校長職の魅力と
は、子ども達の笑顔が咲く学校づくりの先頭に立
てることなんだ。」笑顔が自分に、校長職として
の存在意義を伝えてくれます。

「学校は、子どものものである」これは、私が常
に胸に留めている言葉です。「子どもを主語にし
た学校」ということです。子ども達がいて、私
たち教員がいる。常に子どもが主役であり、全
ての教育活動の主語は、子どもである。子ども
が学校の中心となり、子どもと先生方が生き
生きと活躍できる学校。全ての子ども達が
生き生きと自分らしく学び日々成長を実感
できる「幸せな学校を創る」。そして、先生
方自身が幸せを感じる学校を創ることが、
子ども達の幸せな学校に大きくつなが
っていく～。ひまわりのような笑顔が輝く
学校づくりに、誠心誠意努力していきたいと思
います。

東西しらかわ小学校長会の先生方には、大
変お世話になります。どうぞよろしくお願い
いたします。

中島村立滑津小学校長 永島 慶和

他地区での新任校長「武者修行」を経て、
県南の地に戻ってきた初日に、校舎屋上から
周囲を見渡す爽快感を味わいました。本校は、
滑津ケ原の田園風景を一望できる高台にあり
ます。よくこの環境に立地したものだ、古の
人々の粋な計らいに感心させられます。

野口英世博士の母校であった前任校の勤務
から得た教訓は、学校が「地域と共にある」
ということです。地域という大枠に組み込ま
れ、その歴史や風土、伝統が、学校という存
在価値にぐっと凝縮されています。地域の教
育資源がもつ効果をいかにして引き出すか、
校長の手腕が問われます。

中島村のイメージキャラクターである「なか
じろうさん」のモデルとなった「汗かき地蔵」
が、学区内にあります。この地に事変あれば
五体に汗をかいて人々に知らせるとい
う言い伝えがある地蔵様です。神秘的な
パワースポットで、心地よい衝撃！を受
けますよ。ネタバレしませんので、是非、
ご覧あれ。この宝を有する地域が守り育
ててきた価値観を大事にしていくことが、
子どもたちの未来づくりに直結していく
と信じています。

また、職員玄関に入ると、外部講師でお
世話になっている現代書家揮毫による寄
贈額「深謀遠慮」に迎えられます。子
どもたちの未来のために、効果的な
教育活動を用意し、展開しているか？
その場で自問自答する毎日です。この
言葉に込められた用意周到な側面と、
臨機応変な動き、その両輪を切り替
えてできる組織をつくりたいと思
います。従来の教育実践を再構築して
カスタマイズできる創造性に、ほんの
少しの遊び心を加えて、本校なら
では教育環境を整えてまいります。

今日も元気に坂道を歩いて登校してく
る子どもたち。その子らの将来のため
に、約150年間続いてきたこの「場
所」を守り抜くことが、54人目の
校長として私に課せられた責務です。
判断に迷ったときには、眼下の田園
風景を眺めつつ、古の人々と同じ風
を感じながら、熟考を重ねた実践に
努めたいと思います。

「おい、今の滑津小は大丈夫か？」と
地蔵様に冷や汗をかかせないように、
現職に専念して精進してまいります。

共に伸びよう 伸展大樹

地域と共に創る学校

矢吹町立三神小学校長 東城 正充

棚倉町立高野小学校長 戸倉深希子

前任の校長先生から、教育目標の変遷についてお話をいただいた。まとめると、下のようになる。

H2	豊かな人間性を備え 心も体も健康で 努力する子ども
H3	豊かな人間性を備え 心も体も健康で 努力する さわやかな子ども
H10	豊かな人間性を備え 心も体も健康で 自ら学ぼうと努力する さわやかな子ども
H26	豊かな人間性を備え 心も体も健康で 自ら学ぼうと努力する子ども
H30	豊かな人間性を備え 心も体も健康で 共に伸びようと努力する子ども

この表を見て分かるように、教育目標の「豊かな人間性を備え 心も体も健康で 努力する子ども」の部分は、平成2年度から継続して引き継がれてきている。平成10年度から「自ら学ぼう」が新たに加えられ、20年間引き継がれてきた。そして、平成30年度に「共に伸びよう」に変わったのである。これは、大きな転換である。当時の先生方が教育課程を編成する際、時間をかけて話し合ったことが予想される。

その理由についても、詳しく説明を受けた。

「小規模校である三神小学校で、将来必要とされる資質・能力を伸ばすためには、大規模校以上に、級友との協働学習や体験学習等が必要不可欠である。それには、少ない級友同士が、よく考えて伝える力を磨くことが極めて重要であり、切磋琢磨しながら共に伸びようという気持ちを抱く子どもになってほしい。」という思いから一部改正したということだった。

令和3年1月26日中央教育審議会より2020年代を通じて実現すべき「令和の日本型学校教育」の姿には、「個別最適な学び」と「協働的な学び」が示されている。「協働的な学び」は、まさに、本校の教育目標である「共に伸びようと努力する」と合致する部分である。

教育目標の具現化をめざし、「チーム三神」を合い言葉に全教職員及び保護者、地域の協働により教育活動を充実させていきたい。

また、GIGAスクール構想の実現による「個別最適な学び」、学校における働き方改革の推進等、取り組まなくてはならない課題は多い。

これらの課題解決のために学校運営協議会や地域学校協働活動についても、教職員への理解を図るとともに、導入することによるメリットを実感できるよう働きかけていきたい。

4月に先輩の校長先生方にお目にかかり、温かいお声をかけていただき、それまでガチガチだったのがふっと力が抜けました。何かあるたびに、いろいろとご指導いただけることに、ただただ感謝の毎日です。ありがとうございます。

校長としての一步を踏み出した創立148年の歴史を持つ高野小学校は、全校児童54名、同じ校舎にある幼稚園の園児が7名というアットホームな学校です。幼稚園の子どもたちが砂場で遊んでいると、小学生も一緒に遊び出します。決して幼稚園の子どもたちの遊びを取ることはしません。むしろ、小学生が入ることで遊びがダイナミックになります。砂山を高くしたり、水を流して池に見立てたり…。幼稚園の先生方にも成長を褒めていただけます。本当に恵まれている環境です。

さらに、ありがたいのが、地域の方々です。子どもたちの活動を支えるために、「校歌ツアーズ」の講師を務めてくださったり、花を子どもたちと一緒に植えてくださったり…。運動会の時も、「今年の運動会はどうするの?」とたくさんの方々から気にかけてくださいました。今年度も地域コーディネーターの方を中心として、学校教育にたくさんの方々関わってくださっています。

だからこそ、地域の方々と触れあって、一緒に汗を流して「高野が大好き」な「高野っ子」を教職員、保護者の皆さんはもちろん、地域の方々と共に育てていきたいという「夢」を持つことができました。

私は、教員採用試験の時の小論文で「『教育』とは共に夢を語る」とフランスのアラゴンの言葉を引用しましたが、子どもたちと夢を語り、一緒にワクワクすることは校長になっても変わりません。さらに、これからは保護者の皆さんや地域の皆さんと共に夢を語り、ワクワクする学校を創っていきたく思います。そして、「志」を持った子どもたちに成長できるよう、支援していきたいと思ひます。



「久慈川の石で作った」と

地域の方が教えてくださいました→

